

平成22年度 第1回太田市公共工事入札等監視委員会 委員コメント

川 田 篤 氏

- ・ 平成22年度上半期の入札執行状況一覧を見て、くじ引きによる落札者の決定が多いと感じる。くじ引きは、そのこと自体をとってみれば公平さという長所を有しているが、競争性を失うことになれば、これまた問題となろう。今、断定できる何らかの弊害が見つかったとは言えないが、今後注視していく必要があるかも知れない。

中 原 國 隆 氏

- ・ ここ3年間発注の結果が丁寧に点検され、制度として必要な見直しが行われてきていると感じます。今後も、緊張感ある取り組みを期待します。

穂 積 照 雄 氏

- ・ 民間工事と公共工事の違いを見極める上で、現在の厳しい経済状況下では、地元企業育成を図る入札制度については理解できる。しかし、くじ引きが多いという点については、入札状況を検証して、競争性を確保できる入札制度の構築について努力して欲しい。

神 保 益 夫 氏

- ・ 今回、最低制限価格の事前公表、事後公表について業界から意見が出されているようですが、事後公表で危惧される市側の考え方を、業界もしくは市民に押し付けられない方がよろしいのではないかと考えます。

入札制度も時代及び景況により種々改善が試みられるわけですが、一般的には公平性を考えると競争入札制度がより良い制度と考えますので、若干の制度改善はあったとしても、基本を曲げないでほしいと思います。

藤 田 修 司 氏

- ・ 公共工事の入札は、市民の視線からも入札業者側からも適正で公平に実施されることが必要です。現在、当市においては諸要件に配慮し、制度や条件に適した入札制度のもとで公共事業が実施されていると推測します。

近年の経済状況下での公共事業の果たす役割は、市経済の為には軽視できないので、公金の適正な使用により市内の経済発展と市民が元気に生活できる社会になることを願っています。

現在の入札制度で特に支障はありませんが、くじ引きの頻度が減少に推移することが望ましいと考えます。そして、業者間の適切な競争を促し、事故なく遂行できるよう行政の更なる努力を期待します。